

健全化判断比率および資金不足比率～津市の台所事情～

地方公共団体の財政状況や経営状況が健全な状態であることをチェックするため、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づく指標を算定・公表しています。

財政状況を判断する5つの指標

自治体の財政状況を判断する「健全化判断比率」には、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率、資金不足比率の5つの指標があります。津市の財政状況は実質黒字であるため、実質赤字比率と連結実質赤字比率には該当せず、また、8つの公営企業で資金不足が発生していないため資金不足比率も該当しません。津市の財政状況は、実質公債費比率と将来負担比率の2つの指標で判断しています。

実質公債費比率

普通会計が負担する地方債の元利償還金等(借入金の返済)が、その自治体の標準的な収入に対してどの程度の割合を示す指標です。

将来負担比率

地方債の残高や、数年間にわたる契約で約束された支払いなど、将来支払わなければならない負債が、その自治体の標準的な収入に対してどの程度の割合を示す指標です。

健全かどうかの判断基準

財政状況が健全かどうかを判断する「健全化判断比率」には、市の財政状況が悪化して危なくなったときに警告する早期健全化基準(イエローカード)と、さらに悪化して自分では財政状況の立て直しができなくなったときに、国や県の管理の下で財政再生に取り組むことになる財政再生基準(レッドカード)があります。

また「資金不足比率」には、経営状況が健全かどうかを判断する経営健全化基準があります。

平成27年度の津市の財政状況

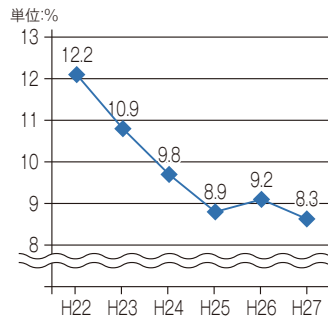
平成27年度の津市の財政状況は、全ての指標で基準値を下回っており、健全な状態といえます。

指標	財政再生基準 (レッドカード)	早期健全化基準 (イエローカード)	津市の比率	
健全化判断比率	実質赤字比率	11.25%	実質黒字のため該当なし	
	連結実質赤字比率	16.25%		
	実質公債費比率	35%	25%	8.3%
	将来負担比率	—	350%	41.7%
資金不足比率	経営健全化基準		津市の比率	
	20%		各公営企業とも資金不足なし	

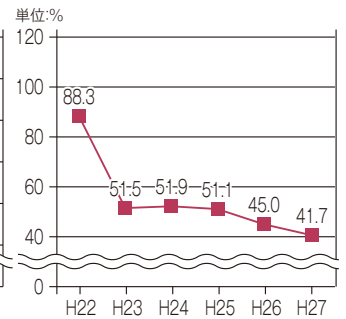
健全化判断比率の推移

実質公債費比率と将来負担比率は改善傾向にあります。平成27年度は実質公債費比率、将来負担比率とも低下しました。この傾向は全国的なものであり、法施行から8年が経過する中で財政健全化の取り組みが定着してきたこと、地方債新規発行の抑制や職員数削減を中心とした行財政改革の取り組みの効果が表れてきていることが要因と考えられます。

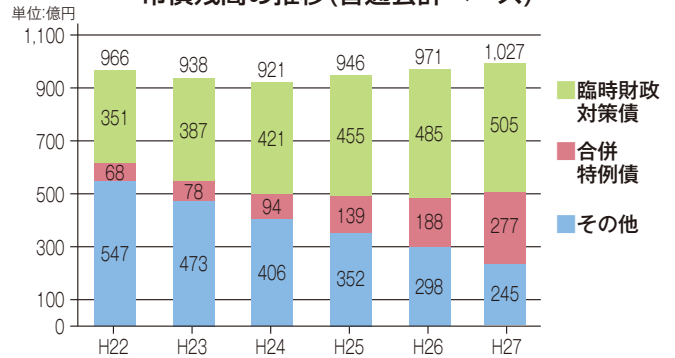
実質公債費比率の推移



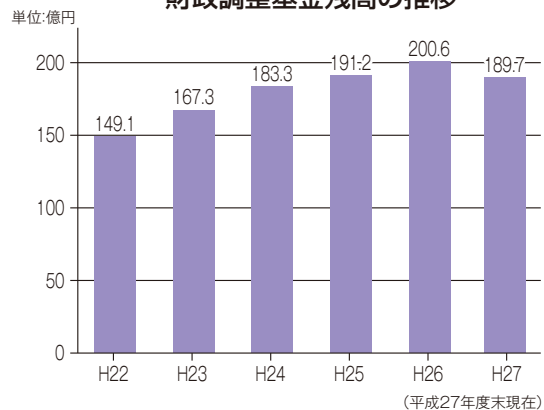
将来負担比率の推移



市債残高の推移(普通会計ベース)



財政調整基金残高の推移



詳しくは津市ホームページをご覧ください。

HP 津市 財政状況

検索